第６８回市民ふれあいトーク　【若者が考える　まちづくり】

日時　平成 29 年 1 月 28 日　14：00～15：30
場所　倉敷市役所１F 市民ホール

要約版

≪市長≫

皆さん，こんにちは。今日は，市民ふれあいトークに参加していただきまして，ありがとうございます。この市民ふれあいトークは，市長とそして地域の皆さんたちとがこうやって意見交換をさせてもらうことで，これからの倉敷市のまちづくりについて，私や市の職員が，皆さんがどういうことに関心を持っていらっしゃるか，また，こういった方向にまちを持って行ってもらいたいという意見を持たれているということを知りまして，それを今後のまちづくりに活かしていきたい，そういう趣旨で行っているものです。今日は，今から１時間３０分ぐらいの時間で，最初は私の方から全般的なお話をしまして，それから皆さんからアイデアとか，今どんなことに関心があるかということを，是非聞かせていただきたいと思っておりますので，よろしくお願いします。

さて，今年，平成２９年ですけれど，今年は倉敷市にとって記念すべき年です。それは何かというと，倉敷市の広報紙「広報くらしき」というのがあるんですが，広報紙の２月号に，５０年ということが書いてあります。倉敷市が昭和４２年の２月１日に，当時の倉敷市，児島市，玉島市の３市が合併して，ちょうど５０年になるというのが，この２月１日になります。当時倉敷市は，水島コンビナート地区がだんだん出来ている頃で，日本有数のコンビナート地区ですけれど,そこが形成されるにともなって,３市が合併しまして，日本の大きな中核市として頑張っていこうということで，市政を倉敷市として取り組みを始めたのがちょうど５０年前です。それで当時，３市で人口が３１万人ぐらいだったんですけど，今の倉敷市の人口は４８万５千人です。（地図を指しながら）で，水島コンビナートがあるこの水島地区，そしてこのすぐ近くのところが，倉敷市の美観地区ですね。伝統的建造物保存地区。町並み保存地区といいまして，江戸時代からの町並みを残す地域となっています。そして児島地区は瀬戸大橋，そして今や全国的にも大変有名になっております児島ジーンズストリートというのがありまして，繊維のまちです。そして玉島地区。今は綿花などの繊維産業は少ないんですけど，昔から非常に繊維産業が盛んで。そして玉島のこのあたりに円通寺などがありまして，非常に趣豊かな所です。

さて，今の話にも関係あるんですけど，この倉敷，水島，それから児島，玉島，この辺りが連島，乙島などもあります。名前に「島」がたくさんついていますが，今は地面ですよね。簡単に言いますと，この「島」と名前が付いているところは，昔，江戸時代の初めぐらいまでは，島だったところが多かった。それが，（地図を指しながら）ここら辺を走っている一級河川である高梁川が，土砂を運んできて，この辺りがだんだん地面になってきました。それともう一つ，干拓というのがあります。豊臣秀吉の備中高松城攻めということで，皆さん歴史で習ったかと思うんですけど，その時使われた堤防を作る技術というものがこの辺りで干拓の歴史とともにその技術が使われまして,だんだん地面になっていく。それによって，島だったこの辺りが地面になるんですけど，干拓して地面になったところの土地の特色は,どういうものだと思いますか？(参加者:地面に塩分が多いと思います。)そう,塩分が多いんです。お米は塩分に弱いので,塩分の多い土地ではお米が作りにくい。それでは，塩分に強い作物は何かというと，綿花，それからもう一つは，いぐさだったん

です。ですので，この辺りの地域を干拓したところは，綿花といぐさの大産地となりました。多くの綿花が作られて，それがこの瀬戸内海，それからこの川を通じて，貿易を行ったということで，非常に綿花産業が盛んになりました。当時，この倉敷市，もちろん今もありますけど，児島の由加山という大変大きな観光地があります。由加山と，それから四国にあります金毘羅山。この二つが当時，江戸時代に全国的な，大変な観光地でして，この二つを廻ってお伊勢参りに行く，というのは全国的な観光ルートでして，この時のお土産物がこの児島の地区で作られた綿花の織物，それから去年大河ドラマで放送された真田紐というものを非常に多く作ってお土産に，軽いものだったので持って帰りやすかったので。そういうわけで，繊維産業が非常に盛んになった。その後足袋が作られるようになり，それから作業服，それから学生服やセーラー服が作られるようになって，今では日本の７割が作られるようになりました。今はジーンズが非常に盛んです。児島ジーンズストリートに行ったことがある人，どのくらいいらっしゃいます？（挙手）若者に人気ですね。そうやって，このまちができてきました。実はこの倉敷市の倉敷川もそうでして，そこにも綿花，それからお米ができるようになりまして，そういうものが蓄えられる。その蔵の中には，綿花の栽培の時に，地面に蒔くものとして北海道から運ばれてきた魚のニシンかすというのが，綿花の肥料として大事なものでして，それを蔵に蓄えて，それを出して，綿花を仕入れる。そういう非常に大きな交易をして，大きな豪商ができたと言われています。先ほど言いました児島ジーンズストリート，先週１月２０日の国会の安倍総理の所信表明演説の中で，一番地方の中で，地域創生ということで頑張っているところとして，倉敷の児島ジーンズストリートが取り上げられまして，全国から問い合わせが来ているところです。そういうことでこの倉敷市のまちというのは，大変盛んになってきました。それぞれのまちづくりとして，児島は今，繊維のまち，倉敷は伝統的な美観地区。昨年，伊勢志摩サミットという大きな会議がありましたが，倉敷では文化と教育を核としたまちづくりをしているということで教育大臣会合が来てくれまして，この美観地区を中心としたところで，その会議がありました。大臣たちには児島や玉島にも視察に行っていただきまして，倉敷のまちも今やだんだん，国際的になってきているところです。

さて，倉敷市は今，地方都市の中でも非常に元気のある都市だと言われてきているかなと思っています。でも一方で，これから少子高齢化社会ということもありますので，子育て支援，それから高齢者の方の健康長寿のまちづくり，そして水島コンビナートをはじめとする地域の産業の活性化ということに，力を入れていきたいと思っています。そういうことについて，皆さんが日頃どう思っているかとか，こういうことを質問したいなということがありましたら，是非教えていただけるとありがたいなと思っています。

今日はちなみに，学生の方はどれくらいいらっしゃいます？（挙手）ほとんどですね，自分たち学生から倉敷を見て，倉敷のまちのここが好きとか，自分はこういう活動をしているとか，また，もっとこういうふうになったらいいなとか，何でもけっこうですので，是非お願いできればと思います。

≪参加者Ａさん≫

私は，先ほどお話にも出た，ジーンズが有名な児島に位置する倉敷市立短期大学に通っているＡと申します。倉敷市立短期大学の服飾美術学科で，ファッションとデザインを学んでいまして，今回，２月２８日から３月５日の間に卒業・修了制作展を倉敷市立美術館

で開催するのですが，あまり知られていないみたいなので，この際に知っていただけたらと思いますし，市長さんや今日出席されている皆さんや学生の皆さんにこの機会にぜひお越しいただきたいと思います。もう一つありまして，私は今，倉敷市の水島港まつりのプロジェクトに，倉敷中央高校の生徒さんと参加しています。一緒に企画案を考えているんですが，こちらは７月２９日から３０日の間に開催しますので，こちらも是非知っていただけたらいいなと思います。今は，水島の港まつりが，けっこう集客率が低くなっていて，若者を取り入れたいなと考えておりまして，今企画しているのは，芸術作品というものをモチーフにして，若者の集客を考えられないかということを，考えています。例えば，日常にあるカラフルな傘を全部，空の上にワイヤーを付けて飾って，空を見上げた時にきれいになって，ＳＮＳとかの広報の効果もあるかなというものを考えています。

≪市長≫

ありがとうございます。さすがに倉敷市立の短期大学の学生さん。保育学科と服飾美術学科があったと思うんですけど，学校でやってましたかね，ファッションショーとか。公開になっているから，他の所からも見学とかに行けるんですか？

≪参加者Ａさん≫

行けるんですが，あまり知られていないので，来ないというのが現状です。

≪市長≫

なるほど，それを知ってもらいたいということで発表したんですね。わかりました。

最後に一言だけ聞きたいんですけど，自分が取り組んでいる，自分の技術ということもあるんですけど，目標は何でしょうか？

≪参加者Ａさん≫

私はグラフィックデザインと言って，広報でのデザインが得意なので，そういったパンフレットとかのデザインで，集客ができるようになりたいなと考えています。

≪市長≫

なるほど，わかりました。水島の皆さんも，すごく若い皆さんの力を求めていると思いますので，是非よろしくお願いします。

≪参加者Ｂさん≫

川崎医療福祉大学の３回生，Ｂと言います。僕からは，僕ら川崎の学生でやっている活動を通して分かってきた，感じたことから，行政の縦割りについて聞かせていただきたいんですけど。今，大学のサークルで，「倉敷トワイライトホーム事業」というのをやっていて，倉敷の民家を借りて，ひとり親などの家庭の小中学生を対象に，夜を一人で過ごしているような子たちの居場所づくりをしています。居場所づくりと並行して，地域の方々と関わったりして，地域全体で子どもたちを見守る体制作りをやっているんですけど，そういう活動の中で，ひとり親のお母さんと話したら，行政の縦割りの弊害が出ているんじゃないかなということで，まず窓口がたくさんあって，ひとり親だと仕事で忙しくて，あま

り行く時間もない，相談する時間も取れないということで，窓口がたくさんあるのも，行きづらい要因になってるんじゃないかというのが一つです。あとは子どもの相談もなんですけど，家庭全体の生活の面で，それぞれの担当者に対して，お母さんが一人一人，関係を作っていって，サービスを受けるというふうになると思うんですけど，それ自体苦痛になるというか，もともと人との関係が作りづらい方も多いと思うんですけど，そういう中で，そういう状況に強いられるというのは，お母さんにとってつらいんじゃないかなというのが一つ。で，それらをまとめてなんですけど，そういうのが原因で，そういう人々に，既存の制度が行き届いてないんじゃないかというのを感じるところで，そういう行政の縦割りの弊害について，どう考えていますか？

≪市長≫

倉敷トワイライトホーム事業というのを，ちょっと紹介してもらえますか？

≪参加者 B さん≫

週に４日，今は５家庭ぐらいの子どもたちを，放課後から夜の９時ぐらいまで，倉敷の民家で一緒に生活するんですけど，ご飯も一緒に作ったり，一緒に遊んだりして。始まって２年ぐらいになりますが，最初は人見知りの子でも，だんだんと話しかけたりしてくれるようになったり，居心地がよさそうな感じで，だんだんと子どもたちにとって安心できる居場所になってるんじゃないかなと感じてきています。

≪市長≫

５つぐらいの家庭を見ておられるんですね。縦割りのこと，ひとり親のお母さんの相談のことでお話をしてくれたんですけど，確かに市の仕事というのがいろんな分野があって，直接ここに行けばはっきり分かる，例えば住民票だったら市民課へ行って下さい，とはっきり分かっているところがあるんだけど，今言われたように子育て支援だったら，昔にくらべてひとり親家庭が多くなってきているので，親御さんがいろんな課題を抱えていて，相談をしないといけないということが出てきているということだと思うんですよ。確かにまだまだ対応できていない状況もあると思います。その件だけではなく，子育て支援でも，このことは子育て支援課，障がいのある子どもさんはまた別のところとかいうふうに，いろいろ分かれているということがあるので。今，子育て支援について市の中でニーズが高いのは，子育て支援に関する相談を一括して受けられるようなところが欲しいというのが，多いので，今まず最初なんですけど，平成２９年度に向けて，子育て支援を，これまではお母さんがこちらの課に行って，次にまたこちらの課に行って一から，とやらなければいけなかったところを，例えばこの番号に電話して，相談をして若しくは面会をして，というふうにすれば，市役所の中でその人の情報を共有して何回も同じことを言わなくて済むというようなことを始めるように，今準備しています。でもまだ，そう言われたお母さんが，いろんなことについて相談するというところ，ひとり親のお母さん専門というのはまだないんですけど，今はそういう状況です。前よりはちょっとずつはよくなってはいます。

トワイライトホーム事業も素晴らしい取り組みだと思います。医療福祉大学の皆さんは，パトロールも一緒に地域の皆さんとしてくださり，いろんな分野で活躍していただいて，本当に頼もしく思っております。ありがとうございます。

≪参加者Ｃさん≫

川崎医療短期大学医療保育課２年生のＣと申します。私たちの大学では保育はもちろんですが発達障がい児のお子さんとか病時，病後時の保育を専門的に学んでいます。卒業後はこの生まれ育った倉敷で,保育士または幼稚園教諭として就職したいと考えております。その中で今全国的に保育士不足が大きな問題として取り上げられており，資格を持っていても保育職に就業しない，いわゆる潜在保育士の増加ですとか，また就職しても数年で辞めてしまうという現状があります。理由として例えば職務の大変さ，責任の重さに対して給与が合わないという待遇の問題などが挙げられております。私はまだ学生ですが，実習やボランティアを通して職務にやりがいを感じますし，子どもたちの人生の基礎を作り上げていく大変重要な職業だと考えております。それ故にこの現状をとても残念に思っています。伊東市長はこの倉敷市の市長に就任なさって以来,「子育てするなら倉敷で」という施策を掲げておられ，待機児童が今倉敷市で１００人を超えているという現状に対して保育園の新設，認定こども園の拡大等の施策が行われていると思います。もちろん子どもたちが過ごす環境をつくることはとても必要なことだと思うんですけれども，そこで働く人の環境を整えていくことも必要だと私は思っております。市長のお考えを是非お聞きしたいので，よろしくお願いします。

≪市長≫

どうもありがとうございました。子育て支援のことについてご質問をいただきました。子育て関係のことというのは一方ではお母さん，お父さんからの相談，それからもう一方では公立の保育所，民間の保育所，認定こども園とかたくさんあるんですけど，なかなか保育士の方が需要に追いついてないという状況が全国的にあると思っています。その中で今言っていただいたように，一つには潜在保育士の方，一回仕事に就かれて家庭の事情とか，子どもさんができられてしばらく休んで，また復活しようかなという方もいらっしゃるし，辞められる方もいらっしゃるかと思います。でも本当に保育士さん，幼稚園の先生もそうなんですけれど，子どもの将来を意義付ける本当に重要な時期に子どもさんを一緒に育ててくださる素晴らしいお仕事だと思っています。倉敷市では今，保育園を増やしてもらいたい，それから入れる人数をもっと増やしてもらいたい，という要望がたくさんありますので，昨年は１１１人待機だったのが，秋の時点では７０人ぐらいに減っていますけれど，それでも社会的な要請でもっと預けて働きたいという方が非常に増えていますので，これからも，平成２８年度から平成２９年の４月にかけても枠を１９０ぐらい増やしまして，来年平成３０年も２００人ぐらい増やすということで，毎年増やしていっているところです。ですので，入ろうと思う方は枠がだんだん増えてきていますけれど，今言われたように保育士になる方の不足というのがあると思います。一つには保育士の方の待遇のこと,それから仕事の大変さとかに対する不安というところがあると思うんですけれど，これがなかなか市だけでは解決できる問題ではないんですけれど，国の方でも保育士の方の処遇改善のことについて頑張ってくれています。それで今までよりも保育士の方のお給料が上がっていく様に国の方でいろんな予算を付けるというのをしてくださっていますので，急にすごく上がるということではないかもしれないんですが，今までよりもお給料が上がっていって，頑張っていただけるという方向になってきていると思います。それから

あとは子どもさんと接する時に不安とかもあるんじゃないかと思います。その点，倉敷市の保育所というのは，公立の保育園と民間の保育園とある中で，それぞれバラバラじゃなくて倉敷市全体の倉敷市保育協議会の両方で作っていまして，皆でいろんな研修をして，そういう研修が充実しているところが倉敷市の保育の特色となっています。それから潜在保育士の方で，戻って働こうという方のために前は年に何回かだったんですけれど，今は随時，市の保育の担当課の方へ言ってきていただければ，自分が希望する保育園に行って研修をしてもらって，それから復帰するという制度も取り入れていますので，その制度も使って復帰してくださる方も多くなっていると思います。ですので，入っていただける環境の施設，人数を整備すること，それから働いていただける環境のバックアップをするということに倉敷市は力を入れていますので，是非卒業したら私の希望としては倉敷市内の保育園に就職してもらいたいなと思っています。ありがとうございます。

≪参加者Ｄさん≫

倉敷市立短期大学１年のＤと申します。私は北海道からこの岡山に来て初めて来たのが倉敷市の美観地区で，事前にネットで調べて繊維産業が盛んなまちだと知って，実際に美観地区を観光させていただいたんですけど，その際に思ったのが畳べりとか藍染めなどの伝統工芸品がすごくきれいで，私は観光者として初めて見て魅力的に映ったんですけど，実際に短大に通うようになって気づいたのが，そういう素晴らしい伝統工芸品があるんですけど，実際にその工芸品を体験する場所だったり，イベントだったりが非常に少ないなと感じました。観光する立場から見ると，金額もすごく高いものでなかなか手を出しづらいというのもあったんですけど，実際に体験する機会やイベントがあれば，そのものづくりの良さを感じていただけるのではないかと思って，私は授業でアパレル総論という授業を受けていまして，その授業ではいろいろな繊維産業，デニムだったり学生服だったりの企業の方がお話ししてくださって服がどのような時間をかけて作られているかということも学んでそのものの価値というものを改めて感じることができたので，それでその金額が付いているというのがわかって，そういうことがなかなか実際に知られていないのはもったいないなと感じたので，それをイベントだったり体験できる工房だったりするものがあると，地方の方々も来ていただけるのではないかと感じました。

≪市長≫

どうもありがとうございました。今，すごく大事なことを言っていただきました。観光とかで倉敷に来る人が，見るだけじゃなくて実際に体験するということが重要だというお話しだったと思います。実際に倉敷市の課題としてもこれがありまして，美観地区に来られる方は美観地区と大原美術館だけちょっと見てから次の観光地に行こうかという人がけっこういて，そうすると時間が短時間観光になってしまうので，まちとしても経済的な面からもまだまだ課題があるんですけど，例えば体験型とすればそのまちに対する愛着もわくし，また体験に時間がかかるものは倉敷に泊まろうかという人も出てくると思うので，その体験型観光というのは非常に重要だと思いました。それと，今すごく重要なことを言っていただきましたのは，価値を感じるということですね。市立短期大学は児島にありますので，世界のジーンズの会社の人がいらっしゃってお話をしてくれていると思うんですけど，その中で世界の一流ブランドから仕事が来て，それを納めている，それを今度は自

分のブランドの名前を作ってやろうという人もたくさん出てきている，それがジーンズストリートに出てきてくれています。両方とも大事なんですけど，今大量消費で安いものというところから価値をわかってちょっと高くてもそれを買おうという人がだんだん増えてきていると思うので，我々としては価値の面というのも併せてＰＲすることがすごく大事だなと思いました。ありがとうございました。

≪参加者Ｅさん≫

川崎医療短期大学医療介護福祉科１年のＥです。私は今介護の勉強をしているのですが，実習などを通して介護の魅力や仕事などをもっとたくさんの人に知ってもらいたいと考えています。このことに関して何かお考えがあれば，また介護についてどのように思われているか教えていただきたいです。

≪市長≫

今自分が介護の医療福祉短大で学習していく中で感じていることを教えてもらえますか。

≪参加者Ｅさん≫

やはり介護に対しては高齢者の方のお世話をするというイメージが強いと思うんですけど，私はこの一年間の勉強を通してみて，お世話をするのではなくてその高齢者の方の生活を支えるという場面であったり，また一緒に寄り添ってその方がやりたいこと，そのニーズとかを求めていったりというのを思っています。

≪市長≫

ありがとうございます。介護のお仕事，また介護の魅力ということのご質問をいただきました。今，倉敷市でも人口が４８万何千人なんですけど，その内でいわゆる高齢化率と言われている率は今６５歳以上の方の数なんですけれど，それが大体２５～６％，４分の１で全国平均と同じぐらいです。４８万人の４分の１で１２～３万人が６５歳以上の方です。１カ月ぐらい前に新聞に出て，高齢者の定義が６５歳から７５歳になるかもしれないというのを見たことがある方がいらっしゃるかと思うんですが，まだ決まってないですけど，７５歳以上の方の数も確か６万人弱ぐらいでしたかね。本当にお元気な方の数が多くなってきてはいるのですが，高齢になられて介護が必要だったり，医療が必要だったりという方が増えてくると思いますので，医療介護職の方のお仕事の役割がますます増えてくると思っています。その中でＥさんが言っていただいた中ですごいなと思ったのが，お世話をするということだけじゃなくて支えるということ，自分も一緒に成長するというか，そういう面では素晴らしいと思います。介護施設などに訪問させていただくことがあるんですけれど，その時に従事者の皆さんが，高齢者の方とふれあうことによって自分もいろんなものを教えてもらったり，すごく元気が出るということをよく言われるんです。高齢者の皆さんが「ありがとう」とか「自分が若い頃はこうだったんよ」といろいろ教えてくれるとか，そういうことを聞いてすごく従事者の方も元気が出たり，また自分も頑張ろうと思われるというふうに伺っています。一方で，いろんな症状の方がいらっしゃるので，体力的に大変なところもあると思いますけれど，女性の方もいれば男性の方もいらっしゃる。どう使われるのかはこれからなんですけれど，介護ロボット，何でもロボットにする

んじゃないですけど，ベッドから起き上がったり，立ち上がったりするのを手伝う力の上の介護ロボットというのを国の補助金がついて導入される方が倉敷市内にだんだん増えてきていまして，やはり体力的に大変なところは今後そういう技術なんかも導入されてきたりして，体力だけじゃなくて高齢者の方を支えるというところに，より注力することができるということも増えてくるんじゃないかと思います。私も年配のみなさんとお話をする時の魅力というのは，これまでの長い人生を生きてこられているのでそういうことをお話ししてくれたりとか，それから自分のことを孫みたいに褒めてくれたりとか，そうしてくれるということが嬉しいし，この年長の皆さんは我々の社会を支えてこられた方ですので，その方が自分らしく生きていただける様に取り組みをしていきたいなと思っています。そういう面で医療介護職の皆さんに頑張っていただきたいと思っていますし，それからなるべくお元気な年配の方がたくさんいらっしゃることがこれから重要だなと思っております。もちろんこの高齢化率というのは人口の比率で多くなって，これからもっと高くなる。その中で医療職や介護職の数が満たされるかどうかが出てくると思います。さっき子どもさんが一人で過ごしているというのがあったんですけど，年配の方が家でずっと一人でいらっしゃって，他の方との対話が少ないとなると，どうしても認知症になったりとか，という人が増えてくるというのも伺っていますので，なるべく外へも出て行ってもらって地域の人ともふれあうということで，実は倉敷市内にはふれあいサロンというのがあって，何百カ所くらいの地域の方が寄合所みたいなのを作って，そこに小額なんですけれども倉敷市からもお茶菓子代みたいな形で運営費ということでちょっと出していて，そこに地域の方が定期的に集まってお話をしたりする，というのをしていたり，若しくは認知症カフェと言いまして，今は認知症カフェという言い方がオレンジカフェというふうに変わってきたりしているんですけど，認知症の方やその家族の方，若しくは認知症の方の事を知りたい方が集まってお話をするというオレンジカフェも増えてきているので，そういう所でも地域の元気な方，認知症の事もよくわかってもらおう，それから倉敷市の保健所でももっとみんなが健康にいこうということで，市の生涯学習講座でも健康の講座のようなものを増やしていく方向にだんだんなってきています。ですので，Ｅさんもこれから・・・，さっきから倉敷市に就職してくださいってばかり言いそうですけど(笑)是非機会があったらよろしくお願いします。

≪参加者Ｆさん≫

川崎医療福祉大学２年のＦです。僕は私立高校の授業料について考えているんですけど，この間東京都が私立高校の授業料を免除にしたことに関して考えていて，それを倉敷市も取り入れることによって学校に子どもが行く時の選択肢を増やすことができると僕は思っていて，ひとり親家庭とかの子どもたちは，自分の学力を伸ばすことができなかったり，そちらより生活の方を優先して家のことなどをするため，学力の低下があると僕は考えていて，その子たちが公立高校に入れなかった場合，私立高校に入ることになると思うんですけど，その場合学費の方が高く感じるので，私立高校の授業料を免除まではいかなくても安くする方が良いと僕は考えていて，また，ひとり親家庭の医療費についてなんですけど，倉敷市は１割だとホームページでは見たんですけど，岡山じゃないんですけど他の市とかを見て行くと２２歳までの大学などに就学している人の入院費や通院費などを無料にするというのを他の市などで見て，母子家庭と父子家庭の人は１割負担となっているのに，

他の市とかは無料になっていることについて地域格差を僕は考えているんですけど，そのあたりはどう思いますか。

≪市長≫

はい，ありがとうございました。ひとり親家庭の子どもさんの高校の進学とか医療費のことについてご質問をいただきました。高校進学のことについて，いわゆる社会的な単語で言うと貧困家庭という単語があるんですけど，具体的な基準みたいなものがあって今全国の中で大体１５％ぐらいのところが貧困家庭という基準に該当するのではないかと言われているというふうに聞いています。それを倉敷市で例えば生活保護の家庭の基準とマッチしているかと言えばそうでもないと思いますし，それから生活保護の方よりもちょっと収入がある方で生活困窮者という基準もあるんですけれど，それとひとり親家庭と基準が違うと言いますか，今言いました生活保護の方，生活困窮者の方というのは，いわゆる年収で基準がありますけれどもひとり親家庭の方というのは，ひとり親で子どもさんを育てていらっしゃるということで，ちょっと基準が違っているんです。それで公的なものとしては，生活保護の家庭には生活保護だとか，それから困窮世帯についてはその手当がないわけですけど，実は倉敷市では始めて５年ほどになるんですけど，お家が困窮状態にある時に子どもさんが勉強できない。自分も高校まで行けなくて就職なども不利になって，困窮家庭になるといういわゆる負の連鎖みたいなことになってしまわないように，倉敷市の生活自立相談支援センターという所があるんですけれど，そこで生活困窮者の方，生活保護の家庭の方もそうなんですけど，その家庭の皆さんから相談を受けて子どもさんが勉強を学校以外の所で，中学校まで勉強できてそして高校に行くだけの学力を身につけてチャレンジしようという仕組みを作っていて，そこに今４０人ぐらい，一番最新の数字を持ってきてないんですけど，だんだん増えてきていまして，そこに行ってくださった方の高校進学率も良くなってきているという状況にあります。ただ，私立の高校の授業料の免除というところまでは，なかなかその高校ごとの学園経営方針というのがあって，そこまではいっていないと思うんですけど，一つには学力の面で頑張るという，いわゆる特待生の制度というものがあると思うんですけど，まだちょっと免除というところまでは，いっていないのが現状かなと思います。このことについて私立の高校とまだ意見交換をしたことがないので，今後私立の高校の経営者の皆さんと話をする時に，そういうことについて皆さんはどう思っていますかとお話をしてみたいと思います。

それから医療費のことなんですけど，これは市によっていろいろ違っていまして，今言ってくれた２２歳までなんですけど，全国の中でもけっこう小さな市町村が，医療費を高校まで若しくは２２歳まで無料にしますという所もあるんですけれど，倉敷市はまだ子ども医療費の無料化というのは小学校は通院も入院もそうなんですけど，中学校は入院だけ無料で通院の方は無料にはなっていないんです。岡山県内でも市によって違っていまして，小さい市は無料化しているところもあるんですが，倉敷市は，まだできていないんです。一つには財政上かなりお金がかかるのでいっぺんにはできない。それからこれは行政内部の話なんですが，岡山県が倉敷市に対する医療費という面で補助金をくれているんですけど，それが倉敷市の補助金だけちょっと少なくて，あんまりくれていないんです。その金額が４億円ぐらいくれていなくて，他の所と同じ基準だったら倉敷市も中学校までは医療費の無料化はできるんですけれど，少しずつ勘案してくれているんですけど，まだそれが

できていないのが現状です。それが少しでも上に向いていく様に頑張っていきたいと思います。ありがとうございます。

≪参加者Ｇさん≫

川崎医療短期大学医療保育科のＧです。私の個人的な願望なんですけど，２１年間児島に住んでいるんですが，今は大学生になって車も持つようになって，学校も中庄なので倉敷に来る頻度が多くなったんですけど，高校や中学の時は児島なので，倉敷直通の電車が無くて，岡山に出て岡山から倉敷まで来ないと美観地区に行けなかったりしました。今は児島の繊維産業が盛んになっているので，倉敷の美観地区が直通でつながるようになればいいなと思いますが。

≪市長≫

一応バスはあるんですが，本数が少ないというのはあります。それから今言われたように児島からの方は岡山に行ってから来る，特に中庄方面はね，そうですね。倉敷までどっちも乗り換えないといけないし，児島の方が電車の本数もあるということになっているだろうなと思っています。それも，今Ｇさんが言ってくださったように倉敷市の公共交通の大きな課題でして，一つには，（地図を示して）ここを倉敷だとしたら，玉島，水島それから児島と，一応少ないながらも縦の線はあるんですけれども，横の線がないとか，それから，児島の方が倉敷に来るときに岡山経由じゃないと行けないとかあります。特に水島地区の方が言われるのは横の線が少ないので，児島に行く時，玉島に行く時に不便というのを言われていまして，実は今倉敷市の公共交通の計画見直しをする時に，いっぺんにはできないかとは思うんですが，今のバスがいくつか細切れにあるのを上手くつないでもらって，乗り換えをして横の線を行けるように少しやり易くするとか，そういう事を考えないといけないと思っています。それから，縦の線は一つには水島臨海鉄道というのがあって，たくさんの方が利用してくださっていますけれど，それも利用して，特にこれから年長社会になっていきますので，みんながみんな運転できる人というのは少なくなってくるんじゃないかと思いますので，公共交通の充実は大事なことだと思っています。ありがとうございました。

≪参加者Ｈさん≫

すみません，○○○○○○○（会社名）のＨと申します。今ちょうど家を建てているんです。で，倉敷ってすごく市街化調整区域が厳しくって，特に多い地域だと聞いたんです。自由に家を建てられない人が多いという事を聞いたんですけど，これは何か理由があるのか聞かせていただきたいなと思います。

≪市長≫

はい，ちょっと詳しいことになるんですけれど，市街化区域，つまり街なかのところ，家を建てたりして，集積というんですか，そういうところを増やしましょうという地域と，それから市街化調整区域といいまして，そこはなるべく市街化区域の方に人に行ってもらうために開発を抑制しましょうというところと，まあ農地（保全）というのもあるんですけど。この区域の分け方と言うのが定期的に見直しがあるんですけど，地域の人たちの意見

を聞いたり，それから大きくは岡山県の管轄になるんです。その時に地域の意見を聞く中で，そういう手続きでこれまでも決まっていまして，「この市街化調整区域が家を建てる要望が多いから，この部分だけ市街化区域にしましょう。」というふうにできない仕組みになってまして，これは倉敷市だけではないんです。全国的にそういう仕組みになってまして，市全体の中のここは市街化区域，ここは農地，それからここはなるべく市街化にするような区域というのを市全体，岡山県全体の中で決めてきている経緯があるので。でもこれからは人口構成なども変わってくるので，見直しが必要ではないかということも言われていますが，現状では難しいかなと思います。一応倉敷市だけが厳しいというものではないです。

≪参加者Ｉさん≫

川崎医療短期大学医療介護福祉科のＩです。さっきも話をしてくださったんですけど，私は１年生で今までに２回実習に行ったんですけど，そこで施設が人手不足だったりそこで働く介護従事者の数が少なかったりというのを見てきました。それは介護に対するイメージがあまり良くなかったりするのが理由であると思うんですけど，それについてどういうお考えでしょうか。

≪市長≫

一番大きな原因は，高齢者の方の人口増加分と，それと介護に従事してくださる方の人数とに差ができてきているというのが今の大きな課題だと思います。もちろん介護職はきついこともあるし，さっきも言ったようにふれあいもあると思うんですけど，介護職だけがきついというイメージが社会的にあるという事ではないかなと私は思います。一番の大きな原因が，人数にかい離があるので，一人にかかる負担が大きくなってきて，それできつい仕事だと思われる状況になっているのではないかというふうには思っています。それでさっきもちょっと言ったんですけど，倉敷市としても，国のいろいろな制度を使って介護の従事してくださる方が増えていくような仕組みも作っていますし，それから元介護職の方がもう一度職に就いてくださるような，さっきの保育士のような取り組みとか，そういうものも取り入れたいということと，それからもう一つが，これからますます高齢者の方の人口が増えてくるということで，その時に，健康な年長者の方が増えていかないと，介護に従事する人が増えるばかりだと，少子化社会で子どもの人数が少ないと一人にかかる負担が増えていくばかりになるので，市の大きな方向性としては，一つにはなるべく健康な年長者の方を増やしていくところにも力を入れて，それと介護に従事してくださる方に，一人ひとりの方の負担を減らして，かつ生きがいを持って仕事をしていただけるような仕組みを作っていきたいと思います。頑張りますので，皆さんもよろしくお願いします。

≪参加者Ｊさん≫

川崎医療福祉大学３年のＪと申します。私は今，社会福祉士の資格を取るために勉強しています。先ほどトワイライトホームの話があったんですけど，そこの一員として倉敷市で暮らしている貧困に苦しむ子どもたちの支援をしています。そしてもう一つ，そういった子どもたちの声を届けるために「岡山ユースミーティング」の実行代表をしています。ここ岡山でも今，子どもの貧困は大きな課題となっています。岡山に暮らす当事者の子た

ちや，それから岡山でこれから子どもに関わる仕事をしようとしている教師や保育士になる大学生，福祉を学びたいと関心のある大学生とともに，子どもの貧困について私たちに何ができるのかというのを月一で考えたり，そして今苦しいと思っている子どもたちの声を社会に届けるという活動をしています。この活動はあしなが育英会の奨学金を借りている学生が，一昨年から全国で政策提言を行った活動から始まっています。私もその後参加させていただきまして，岡山の行政の方や議員の方に出向いてお話をしに行ったり，昨年の１１月にも学生に向けた子どもの貧困を知ってもらうためのフォーラムを開かせていただきました。

今回私が市長に聞きたいことは主に２つあります。まず昨日聞いた話なんですけど，学校の先生と話をする機会がありました。本当に昨日聞いた話ですが，Ｇ７で倉敷は教育が盛んな街だと聞いています。私自身は香川県でずっと過ごしてきて，今も中庄まで通って来ています。そのニュースなどをテレビで見て凄い大きなイベントだったなあと思っています。教育が盛んなまちではあるのですが，その教育の底辺には福祉の基盤が必要だと私は考えています。今倉敷のトワイライトホームに来ている子どもたちの中にも「帰ってもお母さんも誰もおらんのじゃ」とか「温かいご飯を久しぶりに食べたなあ」という，ちょっと聞いただけでもすごい悲しい現実がここ倉敷であるという事を実感しています。そして昨日の学校の先生の話でも，倉敷はすごいソーシャルワーカーの申請が岡山の中でも多いんです。学校の先生はすごく疲弊をしている，でも困っている子どもたちはすごく多いというのを聞きました。なので，一つ目はソーシャルワーカーの拡充について市長にお聞きしたいと思います。

二つ目がこのことについて質問をしようとネットで生活保護世帯の進学率について私は調べようと思ったんですが，あまり資料がなく，岡山県全体の話にはなるんですけど，調査が非常に少ないというのが，私が今感じているところです。岡山県もそうですし，この倉敷市もそうですし，まず調査をすることによってどんな現実があるのかというのを見定めた上で，子どもたちのために何ができるのかというのを一緒に考えていきたいと思っているので，一つ目ソーシャルワーカーの拡充と，もう一つ調査についてどう思っているのか聞きたいと思います。

≪市長≫

ありがとうございました。香川から通って来てくださって。それで，社会福祉士と生活保護世帯の実態についてご質問をいただきました。社会福祉士を目指しておられるということで，今本当に社会の中で，社会福祉士の方，それから臨床心理士とか，川崎医療福祉大学をはじめ福祉の関連の大学の皆さんの取られる科目というのは，社会からとても求められているところだと思っています。それで，ソーシャルワーカーですが，学校の中でも直接相談を受けるのは先生が一番多いんですけれど，そのいろいろ相談を受ける先生が，こういう場合はどう対応すればいいのかという相談をする方のニーズというのは非常に高まっていると思っています。今倉敷市でも資格を持っている先生に相談をできるという仕組みはあるんですけれど，まだまだ少ないかなとは思っています。このあたりは，今まだ何とも言えないところなのですが,社会的要請としては増えてきているなと思っています。これは貧困のこともそうですし，学校の中の問題行動のこともそうですし，いじめとか暴力とか，そういったことも含めて資格を持たれている先生たちの支援というのはすごく重

要なことだという感じを持っています。
　それから生活保護世帯をはじめとする困窮に関する調査のことなんですけど，これまで，困窮家庭の事について社会の中で大きく課題となりだしたのが，割とここ７～８年の事ではないかと思います。それで，国をはじめ，生活保護世帯の事については市もある程度情報を持っていますが，国全体として，生活困窮家庭に対する取り組みがまだまだ全体として遅れているという部分が，国も県も市もあると思っています。だからこそなのかもしれませんが，生活保護とかっていう仕組み，若しくは生活困窮家庭，ということは支援を必要とする家庭に対する市の取り組みというのがやっと出てきたという状況になってきているので，同じようにひとり親，子どもさんが家に帰ってもお父さんお母さんがいないっていう家庭の取り組みというのが，皆さんのように全国各地に出てきている状況にあるのかなと思っていまして，それが今後行政と一緒に取り組んでいくべき分野になっていくのではないかなと思っています。まだ今すぐに倉敷市でどうという状況にはなっていませんけど，今は生活保護世帯，それから生活困窮家庭のところの対応をしているという状況です。

≪参加者Ｋさん≫
　川崎医療福祉大学３年のＫと申します。今地域で住民と一緒になって活動しているんですが，その地域住民の方から「補助金をもらっても，今後の担い手が減っていくのが目に見えている」というようなことを言われたんですけど，お金を地域に渡すだけでは限界が来ていると自分も思うのですが，どう思いますか？
≪市長≫
　どういう活動を一緒にされているんですか？
≪参加者Ｋさん≫
　今駄菓子屋を開いたり，春から畑で野菜を作ったりしようという活動です。
≪市長≫
　それを地域の方と一緒にされているんですね。なるほど。その市からの補助金というのはどういった補助金だと言われていましたか？
≪参加者Ｋさん≫
　学区とか社協とかの補助金です。
≪市長≫
　学区とか社会福祉協議会に行っている補助金という事ですね。なるほど，つまり担い手がいないので，補助金をもらっても取り組みが難しいという話でしょうか？
　倉敷市内でも人口が減ってきている地域もあります。増えている地域もあるんですけれど，地域によって担い手不足というのも非常に大きな課題だと思っています。もちろんその地区の人口構成のこともあるんですけれど，私はやはり地域の発展の事は地域の方に頑張ってもらわないといけないと思っているんです。その時に今Ｋさんが言ってくれたような，大学生がちょっと手伝いをしてくれる，なかなか学生の少ない地域の方もいらっしゃるので，そこに大学生が手伝いをしてくれる。それから地域の方が若い学生と一緒に話をしたりして，すごい皆さん元気が出るって言われるんですよ。だから，その地域の方を励ましてもらいたいなと思います。だいたい地域の方っていうのは大学生が自分の地域に来て何かしら関心を持ってくれる，市内に何千人もいらっしゃる学生の皆さんが，何かのきっかけで自分の地域なり，若しくは，例えば自分の研修に行った所とかそういったことを

手伝ってくださるという事が，すごく地域の人にとっては元気が出るので，逆に励ましてもらいたいと思うし，それから自分のできること，できる期間でいいので，自分が地域の方と関わってみたいなと思っていることを示してもらったらいいなあと思っています。よろしくお願いします！（Ｋさん：頑張ります！）

≪参加者Ｌさん≫

川崎医科大学医学部医学科のＬと申します。去年一年間学生代表を務めておりました。僕自身出身は愛知県なんですけど，その時から倉敷市のことは観光都市としてよく知っていたんですけれど，実際来てみたら医療がすごく発達している都市だということを実感しています。今回医療について聞きたいんですけれど，今病院実習をしているんですけれど数多くの患者さんを看てきまして，その中で末期がんの患者さんの実習がありました。今から言うのは日本全国の末期がんの人を対象に採ったアンケートなんですけど，自分の家で最期看取られたいと感じておられる末期がんの患者さんが８割を占めておりまして，そのうち実際自分の家で看取ることができている人は３から４割で，残りの４割の人は何らかの理由で病院で看取られているということなんですけど，おそらくこの理由は，一つは在宅で医療ができるということが利用者も含めてなかなか浸透していないというのと，もう一つは医療が発達してきているのでおそらく平均寿命が延びたので，それもこの理由になっているのかなと思います。是非，倉敷はすごい医療が発達しているので，この機会に考えていただけたらと思いますし，倉敷市長さんご多忙だと思うんですけれど，是非時間があったら医療現場に見に来ていただけたらと思います。

≪市長≫

ありがとうございました。今Ｌさんが言っていただいたように倉敷市には川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院という本当に大きな，全国的にも先進的で充実した病院がありまして，その大きな二つの病院を中核として，医療圏は非常に整っているところだと思っています。その中で今，一つの例として末期がんの患者さんのことを言っていただきましたけれど，さっきの医療介護福祉科の二人の話もそうでしたけど，病院にいらっしゃる方，それから在宅で過ごされる方，病院も今，国の政策としてもなるべく在宅の方にという意向にもなってきているので，バランスが非常に難しいと思います。そのためには医療者，それから介護，看護の皆さんたちの充足が必要になってくると思います。でもやっぱりそれぞれの人材というのは限られていると思うので，私もなるべく元気な高齢者の方，そして在宅でも医療も受けられ介護も受けられる形になっていくのが本当に一番いいなと思いますので，また大学の皆さんともいろんな話をさせていただきながら，倉敷市でひとつ良いモデルが作れればいいなと思っています。川崎医科大学さんとは，もちろん倉敷中央病院さんとも定期的に理事長先生ともお話をしまして，倉敷のようなところをモデルにして在宅医療のモデルを全国に発信していければいいなというお話などもしていますので，学生の皆さんには頑張ってもらいたいと思います。

≪参加者Ｍさん≫

就実大学経営学部２年のＭと申します。私は昨年の１０月から今年の１月まで倉敷市の商工課の方でインターンシップでお世話になっていました。そこで，商店街の事業につい

ていろいろ勉強させていただいたんですけど，倉敷市内の商店街は，倉敷駅前の商店街に関しては中心市街地活性化法で通行量が増えていたりとか，空き店舗が少なかったりするんですけど，玉島とか水島，児島の商店街は通行量が減っていて空き店舗が増えているという現状を知り，それに対して市役所として補助金や助成金を出して事業を行っているということを知ったんですが，全国的に見ても商店街は衰退しているというこの現状があって，活性化のために事業を行っているんですけど，あんまり結果が出ていないという現状も見えてきて，そこで，倉敷の市長さんが考える商店街の必要性は何なのかなというのをお聞きしたくて。大型店とかが倉敷市内にもすごく多くて，小売店舗の数は減っているのに面積が増えていて，大型店の増加もすごい見られますし，商店街って本当に必要なのかなというところもあると思うのでそこをお聞きしたいのと，私自身インターンシップで４ヶ月お世話になって，普段関わらない人，いろんな方とお話ができたりとか自分の生活では見ることのできないところを見せてもらったりとかしてすごく勉強になったんですけど，市役所としてインターンシップを受け入れるということをどう考えられているのかお聞きしたいです。

≪市長≫

Ｍさんは商工課にいる時は何を担当していたんですか？

≪参加者Ｍさん≫

商店街の事業について玉島の地区の昭和の事業とか朝市とか地域おこし協力隊の方と関わらせてもらってインタビューさせていただいたりとか，そんな感じです。

≪市長≫

倉敷市の今商店街の状況はと言いますと，今Ｍさんが言ってくれたように倉敷地区は例えば，倉敷川がある大原美術館の目の前の通りは前から割とたくさん観光客の方がいらっしゃったんですけど，一本中の本町通りとかは前はほとんど人が歩いてなかったんです。今は電線類の地中化をしたり，町屋古民家の再生をしたりということでずいぶん人が増えてきて，それによって商店街にも人が多く来てくださるようになって，一つの大きな成功事例かなと思っています。児島もまだ統計には出ていないんですけど，味野商店街のジーンズストリートの方は，ジーンズのお店が３５軒ぐらい集積することによって，前はほとんど人が歩いてなかったところが，今は土日じゃなくて平日でもジーンズストリートに買いに来られる方も増えてきているので，ちょっとずつ良くはなってはいるかと思っています。水島と玉島なんですけど備中玉島みなと朝市とか，水島だと，いすー１グランプリなども商店街の人が一生懸命，いろいろ考えてやってくださってるんですけど，まだまだ土日とか日頃からそんなにすごく人が来てくれるようにはなっていないと思いますけど，一つには商店街の人がやる気になって頑張ってくれるということが，すごい大事だと思っています。でもそれは，補助金だけじゃなくて，自分の商店街のいいところを発信しようという思い，高齢化社会とも関係あるんですけど，これから年長社会になっていくと皆さんなかなか運転をしてどんどんとはいかなくなってくる。さっきの公共交通と関わってくるんですけど，だから地元の商店街で買い物をしようという方向に，これからそういうふうになるんじゃないかと思うんですけど，その時に地元の商店街が頑張ってもらっているこ

と，地元の商店街のよさをわかってもらう，そのためには商店街の人自身も頑張ってもらわないといけないんですけど，一方で，さっき言ってくれたように若い人たちとか，倉敷市以外から学生さんで来てるとか，仕事で来てくれている人たちが関わってくれることによって，またひとつその商店街の人たちが普通だと思っていることが魅力だったりということもあるので，そういうことを一緒に取り組んでもらうことがすごく大事なのかなと思っています。

それからインターンシップにつきましてはすごい大切なことだと思っておりまして。短い期間からある程度の長い期間まであると思うんですけど，学生の時に社会の実際の仕事のやり方とかというのを体験するっていうことは，仕事に対する考え方を知るうえでも非常に大事だと思っていますので，倉敷市としてはインターンシップ，これからも積極的に受け入れをしていきたいと思っています。ありがとうございました。

≪参加者Ｎさん≫

川崎医療福祉大学のＮといいます。今回はＬＧＢＴのこととかセクシャルマイノリティのことについて，市長におうかがいしたいと思っています。

お聞きしたいことが二つありまして,今回ここに参加させていただけることになりまして,倉敷市のホームベージで,「性同一性障害」とか「ＬＧＢＴ」とか「トランスジェンダー」とか「セクシャルマイノリティ」という単語を入れて，倉敷市が，例えば講演会とか勉強会とか制度とか支援とか行っているのか気になって，調べさせていただいたんですけど，あまりうまくヒットするものがなかったので，倉敷市はそういう人を支援するとか，例えば市役所内の職員を対象に,「こういう『ＬＧＢＴ』という言葉があって」という勉強会を行っていたりするのかとか，そういうイベントを倉敷市で起こしていないのかな，というのがちょっと気になりました。また，もしそういうのがないとしたら，市長はこれから倉敷市にＬＧＢＴとかのことを，理解というか，みんなに知ってもらうためにどういうふうなアクションを起こしていけるのか，どういうふうに思ってらっしゃるのかが気になりました。

２つ目は市長のホームページのサイトを見させていただいた時に，５つの政策というのを拝見させていただきました。で，２０２０年の東京オリンピックに向けて倉敷市をホストタウンにというのを見させていただいたんですけど，ホストタウンにするにあたって世界に発信できるアピールできる機会だと思いますし，伝統とか文化，あと町並みを世界に発信していきたいと書かれていたので，倉敷市を，日本の中でまだ理解の進んでいないＬＧＢＴとかを発信していけるまちにしたらいいんじゃないかなぁと思っているんですけど,市長はどのようにお考えですか。

≪市長≫

ありがとうございました。ＬＧＢＴやセクシャルマイノリティの方についてのご質問だと思います。市のホームページでなかったかもしれませんが，今おっしゃられたことについて倉敷市が最近大きく取り組んだのが，２０１５年の秋に開催しました２０１５日本女性会議倉敷大会，全国の男女共同参画の会議の中でその時々に社会の中で課題になっていることを，男女共同参画の取り組みをする人たちが年に１回集まって，何千人も来られる会議なんですけど，それを倉敷市が開催しました。その時に，その会議始まって以来，Ｌ

ＧＢＴ，セクシャルマイノリティの分科会を設けまして，実際にＬＧＢＴやセクシャルマイノリティの方に来ていただいて，学者の方や市民の方にも参加してもらって，パネルディスカッションというかそういう考え方のことについて，まずは知ってもらうというところからが必要だと思いましたので，それを日本で一番大きな男女共同参画の会議で倉敷市から提案しましょうということで出してまいりました。非常にその時反響をいただきまして，第一歩としては良かったかなというふうには思っています。その会議の成果を踏まえて，倉敷市の男女共同参画の計画なども見直しをしていっているんですけど，その時に，今言ってくださったセクシャルマイノリティの皆さんに対する理解を深めるということは，多様な社会を作るうえで大切なことなので，市の職員の研修の中で，いろんな多様性のことについて研修の議題として取り上げてということは今のところは，やり始めたという状況です。ホストタウンで絡めてっていうところまではまだ考えてないんですけど，２０２０年の東京オリンピックのホストタウンとして，倉敷市は，日本国とニュージーランド国との間で一番最初に姉妹都市を結んだのは倉敷市とクライストチャーチ市ですので，ニュージーランド国をまずは一義的には応援しようということでホストタウンに立候補してそれが登録になりました。倉敷市のいろいろな歴史とか文化を知ってもらう中で，諸外国の方がＬＧＢＴとかの考え方が進んでらっしゃるところが多いかと思いますので，逆に勉強させてもらうことがあるのかなと思いました。

≪参加者０さん≫

川崎医療福祉大学１年生のＯです。私もトワイライトホーム活動に参加しているんですけど，どうしても資金を集める面でなかなか資金が集まらなくて困っているので，市の方から民間のＮＰＯに出資していただけるかなと思っています。もう一つは先ほど特待生になるといろいろ免除になるというのがありましたけど，現時点で一般の家庭と貧困世帯の子どもたちには既に大きな差が開いていると思いますので，その差を埋めるための制度を何か今考えられていますか。

≪市長≫

トワイライトホームの活動について公的な援助ということなんですが，なかなかまだ検討していませんので，申し訳ないですけど，今この段階ではできないかなと思うんですけど，一つにはこれまで行っている市の保護，それから困窮世帯，それからそれとは違う，一人で過ごしている子どもさんというか，それがうまれてきている状況にあると思っています。そこまで市が今の段階では担当できていなくて，それを今学生の皆さんや他のところでも地域の皆さん，それぞれの個人の方がやっていただいている状況だと思います。今後，公的な面で一緒にやっていくかどうかということについては，まだなんとも申し上げられないんですけど，これからは子育て支援という面で，そういう分野への力を入れていくということは必要かなと思っていますが，今すぐに何ができるということまでは至ってないのが現状です。というのが，子育て支援というとたくさんやらないといけないことがあって，いろんな面がある中で，今現状のところの対応がすごく大きな部分を占めていて，新しいところに取組むっていうのはまだまだ少ない状況にあるんですけど，そうですね，市民企画提案事業で対応していける部分も，もしかしたらあるかもしれないですけど，トワイライトホームの事業について主体はどこになるんですか。

≪参加者Ｂさん≫

活動自体は大学のサークルでやっていて，今４年生なんですけど，卒業された先輩が社団法人を立ち上げて，それが一応母体にはなる予定で，ほかにはＮＰＯ法人ぽっかぽかさんがサポートしてくれてやっています。

≪市長≫

まだ行政としてこれからという分野だと思うんですけど今日はきっかけとしてお話を伺うことができたかなと思っていますので,社団法人,ＮＰＯとかができてくるにあたって，市の方が何か一緒にできるようなことも，またお話を聞かせていただいてうまくいけばできるかもしれない，でもできないかもしれないので何とも言えないですけど，分野として非常に重要な分野になってきていると思っています。いろいろな話を聞かせていただいてありがとうございました。

それでは，時間をかなり過ぎてしまいまして申し訳ありませんでしたけれど，いろんな分野で皆さんの関心事項をお話しいただきまして，とてもありがたく思っています。学生の皆さんがいろんな社会の分野において，もちろん授業にしっかり出てということは重要なんですけど，それに加えて自主活動，それから地域での活動などに是非積極的に取り組んでいただくことによって，自分のこれからの社会活動にプラスになると思いますし，何より地域の皆さんたちは学生さんや若い方たちのことを待っていますので，是非，何かのきっかけに自分が実習に行った保育園とか，自分が社会活動に取り組んだ地域の人たちとか，何かしらのつながりを持って活動していただければありがたく思っております。今日は長時間に渡り，いろいろないい意見を聞かせていただいてどうもありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。